

ヤマハ発動機が世界で初めて開発した

電動アシスト自転車「PAS」(パス)が 2013年11月に発売20周年

【大和田武士】

ヤマハ発動機が世界で初めて開発した電動アシスト自転車「PAS」(パス)が11月に発売20周年を迎えた。今年の販売台数は13万台となり、過去最高になる見込みという。売れ続けている大ヒット商品の性能を、記者が体をはって試してみた。

パスは、人がペダルを踏み込む力をセンサーで感知すると、電動モーターが動いて前進に必要な力を補助する仕組みだ。もちろん運転免許はいらぬ。サドルの支柱の下に取り外し式のバッテリーがあり、家のコンセントにつないだ付属品の専用充電器にバッテリーをのせて、充電できる。

様々な用途で使われているようだ。高齢者ら足の力の弱い人をはじめ、子どもの送り迎えをする主婦、通勤、通学、新聞配達などの業務用……坂や重い荷物を積んでの運転が軽い力で楽にできるのが売りの。

車種別の販売台数は非公表だが、ここ数年は子どもを前後に乗せられるタイプが人気で、「イクメンブーム」に乗り、女性だけでなく男性も使っているという。

「これならたいいの坂でも大丈夫」と自信満々の同社広報に、パスの性能を証明する「激坂チャレンジ」という企画への参加を勧められた。

各地の坂を一般人がパスでのぼれるかを試す内容で、その様子を同社のホームページで公開している。「ゲ・キ・サ・カ」と読むらしい。激烈に急な坂という意味だという。

記者は体力にはまったく自信がないが、最も電動モーターの補助力が大きい「パス ナチュラXL スーパー」(13年製、税込み希望小売価格13万5千円)を借りて挑戦することにした。

車体にまたがり、左のハンドルのスイッチを入れる。アシスト機能は強、標準、オートエコ(弱)の3段階あり、手始めに標準を選択した。グイッと右足でペダルを踏み込むと、次の瞬間、グーと自転車が勝手に進む。おお、これは楽そうだ。

会社の取材拠点がある東京都千代田区内神田からスタート。目指すは、都内屈指の激坂、豊島区高田にある「のぞき坂」だ。

目的地まで約6・8キロを試運転を兼ねて快調に走った。軽くこぐだけでスイスイ進む。これなら坂でも何でも行けそうな気がしたのだが……。

「え！これは」。住宅街のなかに突如、あらわれた坂。頂上の様子が下からは見えない。同社によると全長約150メートル、傾斜率23%という激しすぎる坂だ。

激坂チャレンジの禁止ルールは三つ。「立ちこぎ」「蛇行運転」「足つき」が御法度だ。

まずは比較のためにアシスト機能をオフにした「普通の自転車」で挑戦してみた。

こぎ出してみて、驚いた。モーターやバッテリーがついているこのパスの総重量は27・6キログラム。一般的な自転車(約20キロ)より8キロ程度重い。勢いよく踏み出したが、わずか10メートルぐらいで進まなくなった。屈辱の反則技「立ちこぎ」を使っても数メートルよろよるとのぼっただけ。あえなく足をつきギブアップ。

次に、気を取り直して、アシスト「強」でリベンジしてみた。ペダルを踏む感覚がさつきよりかなり軽い。自転車の重さを感じずに進む。さきほどギブアップした地点をほどなくクリアし、ゆっくりだが、どんどんのぼっていく。坂の3分の2ぐらいを過ぎて、だんだん足が重くなり、息も苦しくなってきたが、今度は反則技の「立ちこぎ」をすることもなく、何とかのぼりきった。

のぼりきったあと、上から坂を眺めてみた。こんな坂を自転車で制覇できたとは。激坂チャレンジに成功できたのは、パスのおかげとしか言いようがない。その性能を十二分に体験した。

パスは毎年、車体設計やモーターなどの改良を重ねて販売を伸ばしている。

最初は1車種だったが、三輪モデル(96年)、チャイルドシート装備モデル(98年)などを追加し、現在は22車種にまでラインナップが拡充。フル充電でアシスト機能が使える距離も20年前の約20キロから、今年は約45キロ(強モード)に。まさに、止まることなく進化を続けている。

さらなるヒットに向けて同社は、14年モデル8車種を今月25日から順次、発売した。急速充電器を採用し、充電時間をこれまでの4・5時間から2・5時間に短縮するなど、使い勝手をよくしたという。希望小売価格は税込み9万3450円～14万3850円。

自分もパスのように進化を続けなければ、40を過ぎた記者はそう感じたが、まずは疲れ切った体力の急速充電を優先し、差し迫った課題、そう、この原稿をどう書くか考えよう。そんな気持ちで激坂を後にした。

すがすがしいチャレンジだった。

【商品概要】

●商品名: PAS(パス) 電動アシスト自転車。パワー・アシスト・システムの英語の頭文字にちなんで商品名にした。93年11月に静岡、神奈川、兵庫の3県で限定発売、翌年に全国展開し年間3万5千台を販売した。環境意識の高まりや景気回復の影響で、13年の販売台数は過去最高の13万台になる見込みだ。

●メモ: 電動アシスト自転車の市場 民間調査会社シード・プランニングによると、13年の国内の自転車市場は年約1050万台で、うち約4・3%(44・8万台)が電動アシスト自転車だ。この「電動アシスト自転車市場」は、20年には約1・4倍の62万台、620億円規模になると見込まれている。

現在の市場は、パナソニックサイクルテック(46・9%)、ヤマハ発動機(26・8%)、ブリヂストンサイクル(18・5%)の大手3社が全体の9割以上を生産している。